JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	知財戦略ポートフォリオ策定実務における受動的知財法制のコンプライアンスと知財保護のバランス
Author(s)	駒谷, 剛志
Citation	年次学術大会講演要旨集, 38: 752-754
Issue Date	2023-10-28
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/19220
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

２Ｃ０８

知財戦略ポートフォリオ策定実務における受動的知財法制のコンプライアンスと知財保護のバランス

○駒谷剛志（駒は馬偏に勺）（神戸大学)takeshi@komatani.com

1. はじめに

イノベーションの社会実装には、有効かつ緻密な知財戦略ポートフォリオの策定が必要である。新規事業やスタートアップにおける知財ポートフォリオ実務において、知財戦略策定において種々調査分析をおこなうが、能動的知財戦略に加え、受動的知財戦略としてのルール遵守・規制・標準・試験データ保護等とのバランスの重要性が高まっている。

2. 先行研究

学際領域研究にかかる先行研究

受動的知財戦略については、これまであまり注目されておらず、首相官邸の知財推進計画で種々の表現を用いて言及がされていたものの[1]、具体的な政策提言にまでは至っていない。この点、データ自体については概括的に越境移転の報告が国レベルでもなされている（2023年経済産業省報告[2]）。

薬事データ保護については、この問題を指摘するものは少なくない（例えば、秋元[3]）。他方、伝統的知識に関する知財の問題を指摘するものはあるが（例えば、青柳[4]）、多面的な指摘を行うものもある（例えば、田村[5]）が、多くが学術的なものにとどまる（例えば、岡野[6]、池上[7]）。

他方、経済安全保障制度との関連では、法改正が2022年であったこともありまだ学術研究の報告は少ないが、シンクタンクからの報告がみられる（例えば、肥塚[8]）。

イノベーションマネジメント研究にかかる先行研究

受動的知財戦略のイノベーションマネジメントの側面としては、遺伝資源取扱上の倫理的および社会的側面を論じたものがある（岡田ら[9]）。もちろん、実務的な側面として、国立遺伝学研究所によるABS 学術対策チームが管理する学術研究ツールキット2（guidance_ABS)では、各国情報を含めた各種情報や研究成果を紹介しており[10]、これらは、実務的に有益な情報源となっている。

イノベーション政策研究にかかる先行研究

遺伝資源などについては、保護と利用の調和点を論じるもの（田上[11]）や、近時の法改正に照らし、遺伝資源の知的財産保護の動向を論じるもの（児玉[12]）がある一方で、国も、環境省が毎年環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書を発行しており、国連・生物多様性条約における国際的議論の高まりを受け、令和5年版[13]をみると、持続可能な利用という節も設けられ、政策提言を行っている。

3. 知財保護とコンプライアンスのバランスの現状

しかし、いずれも保護路と利用の調和という観点にとどまり、知財戦略において積極的にどのように活用するのかの視点を含まないものが多い。受動的知財戦略とは、産業財産権のような登録により積極的に得られる知的財産権ではなく、各種規制制度の中で得られる知的財産的効果のあるあらゆる制度を指す。日本における知財戦略立案策定時に、コンプライアンス遵守の感覚が欠落していることがある。知財戦略自体の欠落もさることながら、知財戦略を積極的に推進する場合も、グローバルに問題となりうる論点に気づかないことが多い。

4. 議論

本発表では、医薬バイオ系において遺伝資源等生物資源や伝統知識の既存の知財法制に加えた知財戦略の現在の問題を取り上げ近未来における対応策を検討することとした。特に筆者は知財実務を行う中で、積極的知財戦略立案時において、受動的知財戦略の有無を分析する。これにより、どの程度欠落しているかを明らかにし、現状分析を行う。

受動的知財戦略に関する法制度として、日本における薬事の再審査制度（欧米におけるデータ保護・市場排他権）、農薬・化学系・食品系のデータ保護などを取り上げる。

また、遺伝資源・伝統的知識に関する最近の動き（例えば、生物多様性条約の2022年COP15や、WIPOにおける伝統的知識の保護の国際的調和の動き、遺伝資源関連の特許出願制度への原産地表示義務化制度など）を取り上げる。

このほか、医療技術とも相まって、標準化戦略についても、取り上げ、昨今導入が決まった経済安全保障制度との関連からも標準化や規制の観点から、今後の積極的知財戦略の策定において必要となる受動的知財戦略をどのように組み込んでいくべきかを検討する。

グローバル企業の例の分析を交え、受動的知財戦略を遵守していると思われる例を分析し、日本企業・アカデミアにおける欠落事例と比較を行い、今後の改善の在り方について検討してみることとする。

５　結語

今般の受動的知財戦略についての知見を広め、わが国におけるライフサイエンスイノベーションが健全にグローバル展開できるような戦略に結実することを目標としたい。

参考文献

[1] 例えば、2003年知財推進計画。
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/kettei/030708f.html
[22] https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/kettei/030708f.html

[3] 秋元浩「TPP:知的財産に係る諸問題―医薬品産業を中心として」国際商取引学会年報2016 vol.18 167頁 http://aibt.jp/annualreport/18/18-012.pdf
[4] 青柳由香「伝統的知識をめぐる問題の状況」季刊企業と法創造2巻101頁 https://core.ac.uk/download/pdf/144457476.pdf
[5] 田村善之「伝統的知識と遺伝資源の保護の根拠と知的財産法制度・再論」知的財産法政策学研究 Vol. 19、157頁（2008） https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/43558/1/19_157-166.pdf
[6] 岡野直幸「グローバル化時代の知的財産権制度の動態といわゆる伝統的知識の保護」 知的財産研究所報告書（2017） https://www.iip.or.jp/pdf/fellow/detail17j/kk_JP_Abstract_Summary_Okano.pdf
[7] 池上美穂「遺伝資源・伝統的知識に関連する知的財産権保護に関する現状と課題」特許研究 No.55 5頁（2013） https://www.inpit.go.jp/content/100526195.pdf
[8] 肥塚直人「経済安全保障と特許特許制度～求められるグローバル知的財産戦略」三菱UFGリサーチ＆コンサルティング報告、https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2022/09/seiken_220908_01.pdf
[9] 岡田祥宏ら「遺伝資源取扱上の倫理的および社会的側面」育種学研究 19: 170-176（2017） https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsbbr/19/4/19_19.170/_pdf
[10] 国立遺伝学研究所ABS学術対策チームウェブサイト https://idenshigen.jp/database/toolkit/guidance_abs/
[11] 田上麻衣子「遺伝資源及び伝統的知識をめぐる議論の調和点」知的財産法政策学研究Vol. 19、167頁（2008） https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/43548/1/19_167-190.pdf
[12] 児玉恵理「遺伝資源の知的財産保護の動向」パテント74巻68頁（2021）
[13] https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r03/html/hj21020206.html